

沖縄キリスト教学院大学FD委員会
(編・著)

2013年度 後期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

第3章 自由記述による授業評価

付 録 満足度調査報告

沖縄キリスト教学院大学

2013

巻頭言

2013年度 後期 学生による授業評価

沖縄キリスト教学院大学

学長 中原 俊明

1,2013年10月から14年3月にかけて全93科目につき、学生の授業評価がまとめられ、公刊の運びとなったが、この作業のために貴重な時間とエネルギーを投入して関わった教員、事務職員に深く感謝したい。

2,今回、回収され分析の対象とされた評価表の件数は、2,513件の多きにわたるが、そこから何が見え、どんな課題が読み取れるのか、直接の担当者（執筆者）の周到な分析やコメントに依拠しながら、委員長としての巻頭言を綴りたい。

3,大きく2つの部分からなるが、前半(Q1-10)は学生による教師の授業評価であり、後半(Q11-15)は学生自身による自己評価である。前半ではかなりポジティブな数字が並んでいる(教師による授業の目的の明告、試験や成績評価の説明、教師の熱意、学生の理解を深める工夫、質問を奨励する工夫、等で軒並み90%台の高評価)。他方、学生自身の自己評価部分では、授業へ熱意をもって取り組んだ割合が90%近くにのぼる反面で、受講前にシラバスを熟読しない割合が4分の1であったり、約3分の1が予習復習をせず、していても30分以下の学生が6割超という数字に課題を感じる。つまり30分程度の予習復習で足りる大学教育のあり方が問われる(10、12頁等)のも宜なるかなである。背後にアルバイトや貧困という社会的要因が忍び寄っているのも無視できないが。

4,自由記述による授業評価という部分から、典型的なプラスとマイナスの反応を一瞥してみる。前者の例として、キリスト教を学び、さらにそれに関連づけて私たちを取り巻く社会問題を学んでよかった、オーラルの授業で最も英語を学んだ気がした、プレゼンテーションなどで話す機会が多くてよかった、英語力によってニュースの社会問題などを理解する力がついた、長文読解力がついた、TOEIC対策が実践的で分かりやすかった、グループ学習で成績が伸びた、アメリカの歴史やイスラエルとパレスチナ問題もビデオで学習できた、留学を考える学生に必要な情報がつまった科目だった、「ちちなぐち」の基本や歴史が学べてよかった、人間とは何かを考えさせられた、GDPという指標による分析は有益だった、など。他方、後者の例として、宿題が多すぎる、教師が注意しないので教室がうるさい、など。

5,今回は13年度卒業生対象に満足度調査を加えており、評価したい。その中で、特に満足度の高い項目として、少人数クラスの豊富さ、親身な就職指導、キリスト教への理解と関心の深化、などが注目される。

沖縄キリスト教学院大学

FD委員会委員

(2013年度 後期)

中原 俊 明 (委員長・学長)

金 永 秀 (委員・人文学部長)

A. David Ulvog (委員・英語コミュニケーション学科長)

金城 繁 正 (委員・企画推進課課長代行)

執筆者

照屋 信治 (英語コミュニケーション学科 准教授)

沖縄キリスト教学院大学

2013年度 後期

学生による授業評価報告書

第1章

学生による授業評価概要

はじめに

今回の学生による授業評価報告書は、2013年10月から2014年2月にかけての学期で開設された全93科目、115クラスについてのデータを分析したものである。評価活動は2014年1月に実施された。本章では全てのクラスを一括して分析する。すなわちクラスサイズの大小は問わず、回収された2,513件の評価票についての統計分析の結果を提示する。

1 評価項目ごとの度数分布

全回答票を評価項目別に一括して度数分布を求めた。評価は5段階法による。評価は17の視点(項目)から行っている(調査票は章末に掲げる)。そのうち16項目は5段階法で評定し、1項目は6段階法評定する。評価の基準は次の通りである。

5: 非常にそう思う

4: そう思う

3: どちらとも言えない

2: そう思わない

1: 全くそう思わない

なお、Q15については次の様にしてある；

5: 3時間以上

4: 2時間くらい

3: 1時間くらい

2: 30分くらい

1: ほとんどしなかった

Q16については次のようにしてある；

5: 秀

4: 優

3: 良

2: 可

1: 不可

0: わからない

以下に結果について述べる(表1~表17参照)。まず、Q1~Q17について凡例を述べる。表中「度数」は、1~5(または0~5)のそれぞれに評価した人数である。「パーセント」は、その度数の全2,513延べ件数に対する比率を示している。「有効パーセント」は、「システム欠損値」除いた延べ件数に対する比率である。「システム欠損値」とは、無回答のことである。「累積パーセント」は、有効パーセントを積み上げたものである。

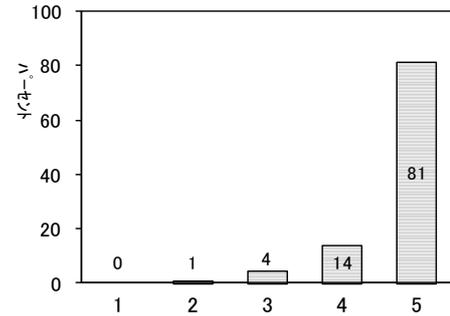
Q1 から Q17 の表は、それぞれ評価項目 Q1 から Q17 の評価結果について度数分布を示す。比率は「有効パーセント」の数値を用いる。また、本文中では小数第 1 位を四捨五入して示す。

評価ランク毎の度数分布を調べ、前節の結果分析をより精密に検討する。比率の表記は少数点第一位を四捨五入した形で示す。また、欠損値を除いた有効パーセントで示す。

Q1授業の目的

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	0	.0	.0	.0
2	16	.6	.6	.6
3	102	4.1	4.1	4.7
4	350	13.9	14.0	18.7
5	2039	81.1	81.3	100.0
合計	2507	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	2513	100.0		

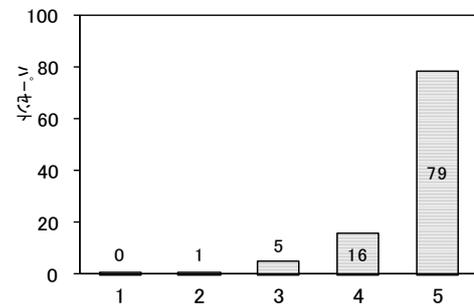
Q1授業の目的



Q2成績評価方法

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	3	.1	.1	.1
2	17	.7	.7	.8
3	130	5.2	5.2	6.0
4	390	15.5	15.6	21.6
5	1968	78.3	78.5	100.0
合計	2508	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.2		
合計	2513	100.0		

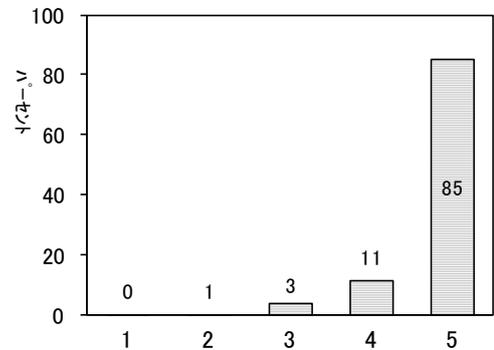
Q2成績評価方法



Q3先生の熱意

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	2	.1	.1	.1
2	13	.5	.5	.6
3	82	3.3	3.3	3.9
4	285	11.3	11.4	15.3
5	2127	84.6	84.8	100.1
合計	2509	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	4	.2		
合計	2513	100.0		

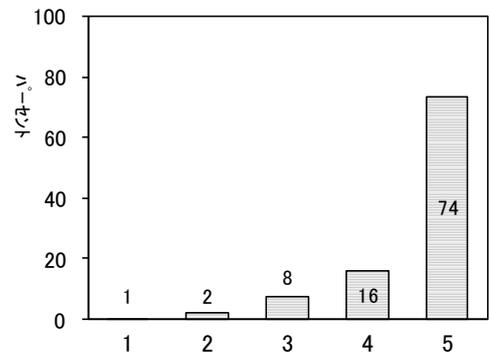
Q3先生の熱意



Q4わかりやすい

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	12	.5	.5	.5
2	53	2.1	2.1	2.6
3	190	7.6	7.6	10.2
4	403	16.0	16.1	26.3
5	1851	73.7	73.8	100.1
合計	2509	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	4	.2		
合計	2513	100.0		

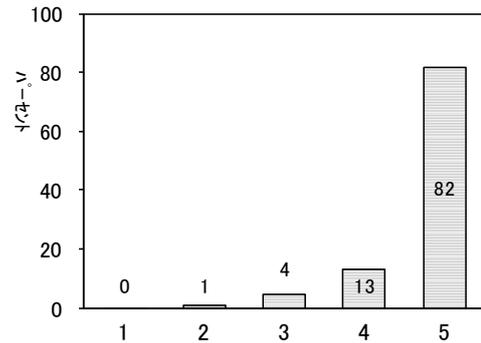
Q4わかりやすい



Q5準備よい

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	3	.1	.1	.1
2	26	1.0	1.0	1.1
3	110	4.4	4.4	5.5
4	324	12.9	12.9	18.4
5	2044	81.3	81.5	99.9
合計	2507	99.8	99.9	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	2513	100.0		

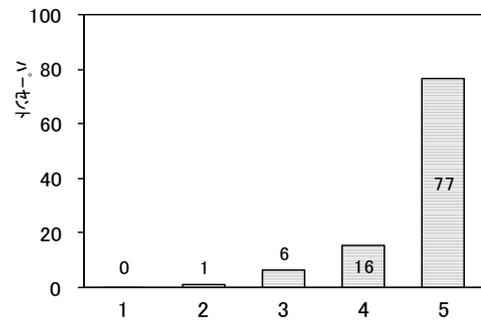
Q5準備よい



Q6理解興味工夫

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	5	.2	.2	.2
2	28	1.1	1.1	1.3
3	155	6.2	6.2	7.5
4	394	15.7	15.7	23.2
5	1926	76.6	76.8	100.0
合計	2508	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.2		
合計	2513	100.0		

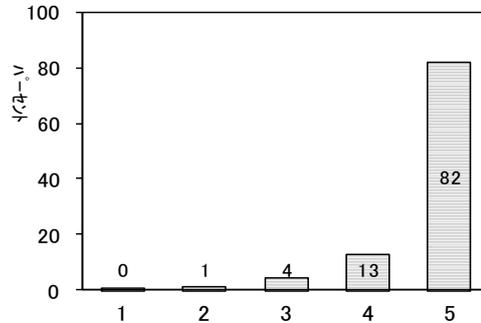
Q6理解興味工夫



Q7時間どおり

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	5	.2	.2	.2
2	23	.9	.9	1.1
3	106	4.2	4.2	5.3
4	323	12.9	12.9	18.2
5	2047	81.5	81.6	99.8
合計	2504	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	9	.4		
合計	2513	100.0		

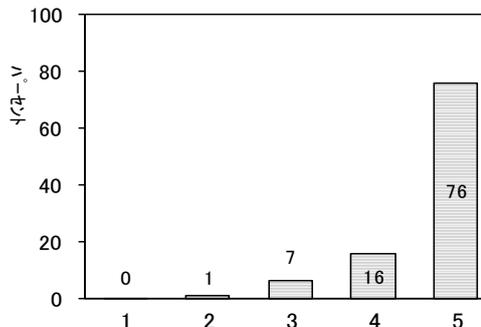
Q7時間どおり



Q8質問の機会

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	6	.2	.2	.2
2	28	1.1	1.1	1.3
3	162	6.4	6.5	7.8
4	398	15.8	15.9	23.7
5	1909	76.0	76.1	99.8
合計	2503	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	10	.4		
合計	2513	100.0		

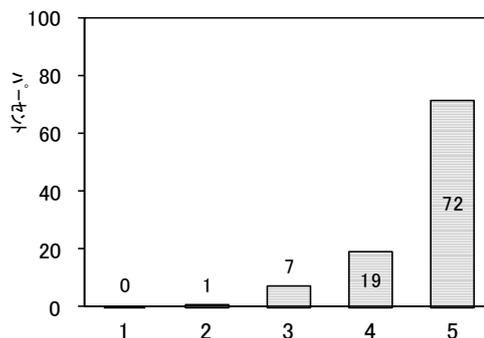
Q8質問の機会



Q9授業妨害へ対処

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	9	.4	.4	.4
2	28	1.1	1.1	1.5
3	185	7.4	7.4	8.9
4	478	19.0	19.1	28.0
5	1803	71.7	71.9	99.9
合計	2503	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	10	.4		
合計	2513	100.0		

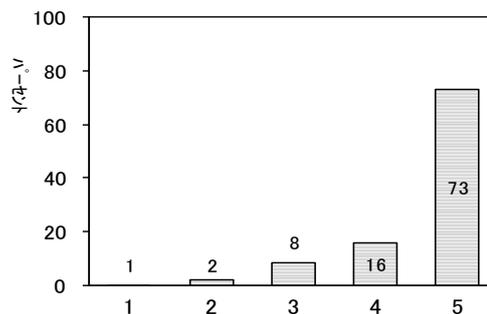
Q9授業妨害へ対処



Q10薦めたい

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	15	.6	.6	.6
2	46	1.8	1.8	2.4
3	210	8.4	8.4	10.8
4	396	15.8	15.8	26.6
5	1841	73.3	73.4	100.0
合計	2508	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.2		
合計	2513	100.0		

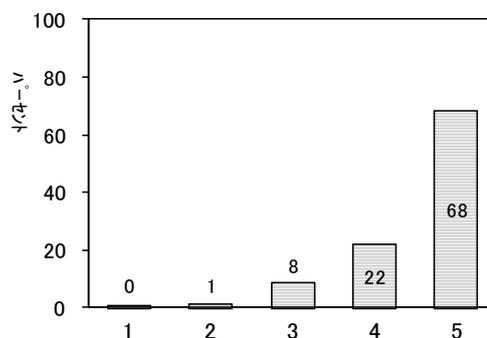
Q10薦めたい



Q11熱意を持って参加

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	9	.4	.4	.4
2	30	1.2	1.2	1.6
3	210	8.4	8.4	10.0
4	544	21.6	21.7	31.7
5	1709	68.0	68.1	99.8
合計	2502	99.6	99.7	
欠損値 システム欠損値	11	.4		
合計	2513	100.0		

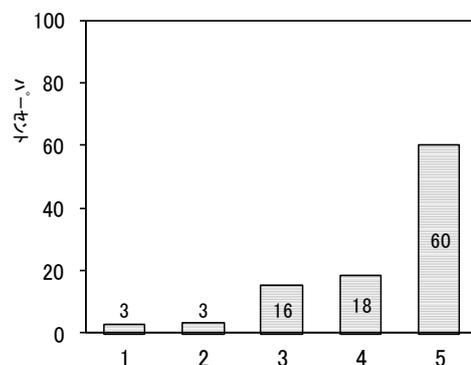
Q11熱意を持って参加



Q12シラバス参考

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	69	2.7	2.8	2.8
2	78	3.1	3.1	5.9
3	390	15.5	15.5	21.4
4	460	18.3	18.3	39.7
5	1504	59.8	59.9	99.6
合計	2501	99.5	99.7	
欠損値 システム欠損値	12	.5		
合計	2513	100.0		

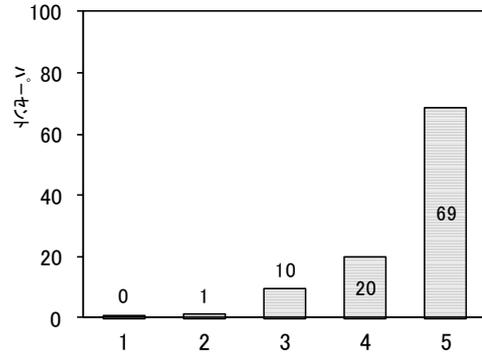
Q12シラバス参考



Q13授業を中座しない

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	9	.4	.4	.4
2	35	1.4	1.4	1.8
3	238	9.5	9.5	11.3
4	499	19.9	19.9	31.2
5	1725	68.6	68.8	100.0
合計	2506	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	7	.3		
合計	2513	100.0		

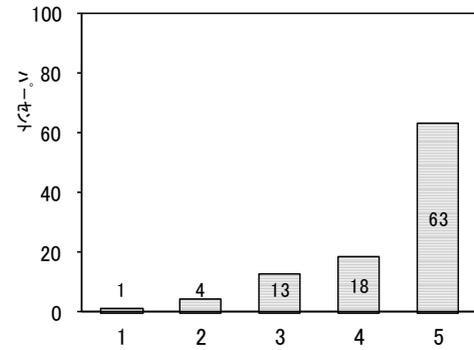
Q13授業を中座しない



Q14遅刻欠席ない

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	30	1.2	1.2	1.2
2	97	3.9	3.9	5.1
3	318	12.7	12.7	17.8
4	462	18.4	18.4	36.2
5	1580	62.9	63.0	99.2
合計	2487	99.0	99.1	
欠損値 システム欠損値	26	1.0		
合計	2513	100.0		

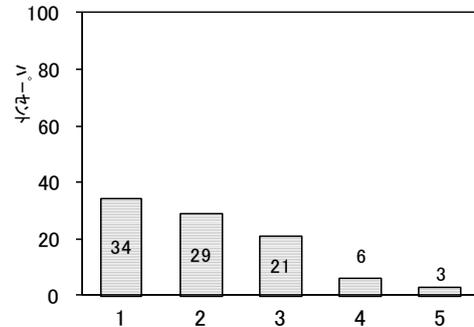
Q14遅刻欠席ない



Q15予習復習時間

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	861	34.3	34.3	34.3
2	729	29.0	29.1	63.4
3	526	20.9	21.0	84.4
4	153	6.1	6.1	90.5
5	64	2.5	2.6	93.1
合計	2333	92.8	93.0	
欠損値 システム欠損値	180	7.2		
合計	2513	100.0		

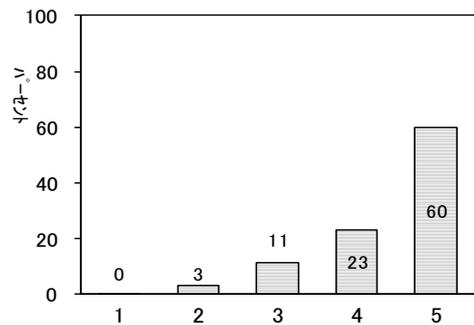
Q15予習復習時間



Q16全体的評価

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 0	30	1.2	1.2	1.2
1	4	.2	.2	1.4
2	78	3.1	3.1	4.5
3	280	11.1	11.2	15.7
4	580	23.1	23.1	38.8
5	1499	59.6	59.7	98.5
合計	2471	98.3	98.5	
欠損値 システム欠損値	42	1.7		
合計	2513	100.0		

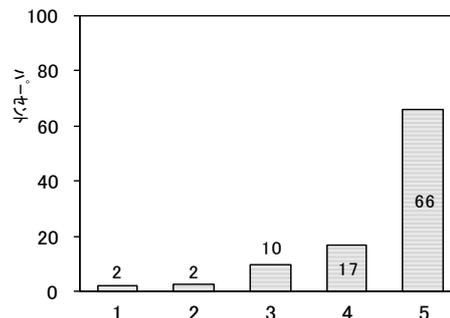
Q16全体的評価



Q17別の科目も受講したい

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	39	1.6	1.6	1.6
2	60	2.4	2.4	4.0
3	244	9.7	9.7	13.7
4	420	16.7	16.7	30.4
5	1646	65.5	65.6	96.0
合計	2409	95.9	96.0	
欠損値 システム欠損値	104	4.1		
合計	2513	100.0		

Q17別の科目も受講したい



2 学生による授業評価の概要

各設問に対する「1～5」の評定を、それぞれ1点から5点に数値化し、これを元にし、平均値等の基本等計量を求めた。ここでは、全クラスの評価を一括した結果を示す。

Q1「学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。」は、「5（非常にそう思う）」が81.1%、「4（そう思う）」が13.9%で、計95.0%と高評価をえている。授業の目的についてはシラバスにも記載はされているものの、教員は学生に対し、開講時に丁寧に説明を行い、周知徹底を図る必要がある。前回調査時、「5」「4」の合計が93.2%であったので改善はされているものの、さらなる高い評価を得られるように努力してゆきたい。

Q2「宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。」については、「5（非常にそう思う）」が78.3%、「4（そう思う）」が15.5%で、計93.8%と高評価をえている。前回調査時、「5」「4」の合計が91.5%であり、若干の向上が確認でき、また十分な高評価とは言えるが、評価と指導は一体であるという観点からすると、「成績評価の方法」に十分に理解していない、あるいは不満を抱く学生が少数ながらいることにも注意を促さなくてはならない。当該講義において学生は何を求められているのかを理解しておくことは受講にあたっての前提である。Q1、Q2とは一体のものであり、学生への周知徹底を図りたい。

Q3「先生は、授業について熱意がありました。」については、「5（非常にそう思う）」が84.6%、「4（そう思う）」が11.3%で、計95.9%と高評価をえている。前回調査時、「5」「4」の合計が93.7%であったので2.2ポイントの向上であり、改善はされているといえる。前回調査同様に高い評価を本学学生は教員へ与えている。

Q4「授業は、とてもわかりやすかった。」については、教員が学生のレベルに合わせた授業を展開できているかを知ることができる。「5（非常にそう思う）」が73.7%、「4（そう思う）」が16.0%で、計89.7%と高評価をえている。前回調査に比べて、「5」「4」とともに数値が向上していることは喜ばしいことである（前回「5」「4」の合計は84.1%）。

Q5「授業の準備はよくできていました。」については、教材研究や本時の計画がしっ

かたてられていることを推測することができる。「5（非常にそう思う）」が81.3%、「4（そう思う）」が12.9%で、計94.2%と高評価をえている。また前回調査の91.3%よりも向上している。

Q6「学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。」についても、教材研究にかかわる評価項目である。「5（非常にそう思う）」が76.6%、「4（そう思う）」が15.7%で、計92.3%と高評価をえている。前回調査では88.5%であった。Q5とあわせて、学生は教員の努力を評価しているといえる。

Q7「授業は時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。」については、教員の授業開始の遅れ・遅刻や、計画性の不十分さによる講義の延長などが無いかを推測することができる評価項目である。「5（非常にそう思う）」が81.5%、「4（そう思う）」が12.9%で、計94.4%と高評価をえている。前回調査の91.8%よりも向上している。この項目については特に大きな問題を読み取ることはできない。

Q8「わからないことを質問できる機会や工夫がありました。」については、学生が授業に主体的に参加することを保証しているかを推測することができる質問項目である。特に大人数の学生が受講する講義などでは、質問カードの使用などの工夫が求められる。「5（非常にそう思う）」が76.0%、「4（そう思う）」が15.8%で、計91.8%と高評価をえている。前回調査の87.6%よりも向上している。

Q9「授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。」については、教員のクラス管理を問う問題である。「5（非常にそう思う）」が71.7%、「4（そう思う）」が19.0%で、計90.7%と高評価をえている。前回調査では87.7%であった。しかし、教授会などでは、学生の居眠り・私語がたびたび話題となっていることと考え合わせると、さらなる努力が必要であるといえよう。

Q10「この先生のこの科目を他の学生や他大学の学生にも受講を薦めたい。」は、授業の満足度の一端を示すものである。「5（非常にそう思う）」が73.3%、「4（そう思う）」が15.8%で、計89.1%と高評価をえている。前回調査では84.6%であった。前々回調査時の90.0%と同程度の通知に回復している。

Q11からQ15は、学生自身の自己評価項目である。

Q11「私は、この授業に熱意を持って取り組みました。」は、学生自身の「授業への熱意」を自己評価したものである。「5（非常にそう思う）」が68.0%、「4（そう思う）」が21.6%で、計89.6%と高評価をえている。前回調査の85.8%を上回っている。

Q12「授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。」については、「5（非常にそう思う）」が59.8%、「4（そう思う）」が18.3%で、計78.1%となっている。前回調査では74.8%であったので向上していると言える。しかし、他の評価項目に比して低い数値となっている。事前にシラバスを熟読して参加していない学生が、4分の1近くいるという事態を考えれば、開講時に、Q1、Q2 の評価項目の授業の目標、評価方法の周知徹底が必要であるといえよう。

Q13「授業を中座しない」、Q14「遅刻欠席はない」、Q15「予習復習時間」は学生自身の「受講態度の自己評価」項目となっている。

Q13「授業中、私語や携帯電話（メール等）、中座など授業を乱すような行為はしませんでした。」は、学生自身の授業規律の自覚を問うている評価項目である。「5（非常にそう思う）」が68.6%、「4（そう思う）」が19.9%で、計88.5%となっている。前回調査では86.8%であり、ここでも上している。しかし、一見して高評価のようにも見えるが、15%近くの学生が、私語・メール・中座などを行っているというデータは、Q9の教師による「授業妨害への対応」、Q11の学生自身の「授業への熱意」の数字とクロス分析して、問題点を析出する必要があると感じる。

Q14「この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。」は、授業への「まじめな取り組み」あるいは学ぶことの本気度が推測できるだろう。「5（非常にそう思う）」が62.9%、「4（そう思う）」が18.4%で、計81.3%となっている。前回調査では83.0%であり、この評価項目に関しては低下している。特に遅刻に関しては、教員からの注意喚起で容易に改善できるものである。さらなる努力が求められているといえよう。

Q15「この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。」は、学生の授業への取り組み度合いが推測できる。「5」（3時間以上）が2.5%、「4」（2時間くらい）が6.1%、「3」（1時間くらい）が20.9%、「2」（30分くらい）が29.0%、「1」（ほとんどしなかった）が34.3%であった。前回調査が、「5」が3.8%、「4」6.4%、「3」が21.7%、「2」が28.0%、「1」が33.4%であった。「1」「2」が増え、「3」「4」「5」が減っている。状況はさらに悪化しているといえる。他の評価項目が軒並み向上しているなか、宿題や予習時間の低下傾向にみられるのはゆゆしい事態である。

3分の1の学生がほとんど予習復習を行わず、30分以下の学生（「2」「1」をあわせて）が61.4%であるとはゆゆしい事態である。英語の習得がカリキュラムの中心である本学であるが、このような予習復習時間で語学学習が可能であろうか。Q11の学生自身の「授業への熱意」を自己評価が「5」「4」の合計で94.2%という高評価であったが、自己評価と実際の努力の間に隔たりがあるように見受けられる。

Q16「この授業を全体的に評価してください。」は、総合的な印象評価である。「5（非常にそう思う）」が59.6%、「4（そう思う）」が23.1%で、計82.7%となっている。前回77.2%より向上している。「1」「2」の合計は3.3%であった。前回調査での「1」「2」の合計の比率は5.4%であり、それに比べて、減少していることは喜ばしいことである。

Q17「この先生の別の科目も受講したいと思います。」は、受講科目の授業が今後の授業に波及する効果を示唆するものである。今回の授業に満足度が高ければ他の科目への誘いとなろう。「5（非常にそう思う）」が65.5%、「4（そう思う）」が16.7%で、計82.2%となっている。前回調査の78.0%よりも向上している。8割近い学生がこの科目の担当者の授業に興味関心を持ったであろうことがうかがえる。

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	2507	2	5	4.76	.550
Q2成績評価方法	2508	1	5	4.72	.602
Q3先生の熱意	2509	1	5	4.80	.515
Q4わかりやすい	2509	1	5	4.61	.758
Q5準備よい	2507	1	5	4.75	.594
Q6理解興味の工夫	2508	1	5	4.68	.658
Q7時間どおり	2504	1	5	4.75	.592
Q8質問の機会	2503	1	5	4.67	.669
Q9授業妨害へ対処	2503	1	5	4.61	.704
Q10薦めたい	2508	1	5	4.60	.768
Q11熱意を持って参加	2502	1	5	4.56	.727
Q12シラバス参考	2501	1	5	4.30	1.020
Q13授業を中座しない	2506	1	5	4.55	.751
Q14遅刻欠席ない	2487	1	5	4.39	.935
Q15予習復習時間	2333	1	5	2.07	1.048
Q16全体的評価	2471	0	5	4.38	.956
Q17別の科目も受講したい	2409	1	5	4.48	.892
有効なケースの数(リストごと)					

3 学習時間量の問題

前述のように、学生の予習復習にかかる時間量の平均は2.07であった。「2」が「30分ぐらい」であるから、30分ぐらいが本学学生の予習復習・宿題に費やす時間であるといえよう。Q16の「全体的評価」が「5」「4」の合計82.7%と高評価であり、またQ4「授業は、とてもわかりやすかった。」が「5」「4」の合計で計89.7%といった高評価をえていることと考え合わせると、本学の授業は、30分程度の自学自習時間で十分に理解できるような内容を提供していることになる。大学の講義として、これによいのか、教員は再考しなくてはならない。

また、今回の結果は、Q15で示したように、「5」（3時間以上）、「4」（2時間くらい）、「3」（1時間ぐらい）の比率がそれぞれ低下し、「2」（30分ぐらい）、「1」（ほとんどしなかった）が増加している。学生の自覚自習時間の減少化傾向が確認できる。その要因には、アルバイト等で時間が取れないなど、現在社会問題となっている「貧困」に関わる問題も存在するであろう。とはいいつつも、適切な宿題量を与えること、適切な予習時間を前提とした授業を行うことなどの検討が教員に求められている。

4 自由記述による評価

自由記述による授業評価は、①授業の良い点、②改善して欲しい点、③授業方法についての感想・意見・印象に残ったことの3つの設問から構成されている。この授業評価の目的は、第一義的には、授業改善の資料を得ることである。その点から考えると、学

生からの記述の回答において、「①授業の良い点」「③授業方法についての感想・意見・印象に残ったこと」に分量が多く割かれており、「②改善して欲しい点」の記述が相対的に薄い点が問題である。

例えば、ある授業への学生のコメントであるが、「1. この授業の良い点」に多くの記述がみられる半面、「2. この授業に改善してほしい点」の回答が、「ないです。／なし／特にありません。／ないです。／ないです。／特になし／なし。／なし／なし／得にない」というものがあつた。これは、学生からの授業への良反応を示すものと理解できよう。その意味では素晴らしいと言える。しかし、これを授業改善という視点から考えると、授業への要望、改善点がほとんど記されていないアンケート結果が、授業改善にどれだけ貴重な材料となるのか疑問である。このような改善点が記されていないアンケート結果は、授業評価アンケートの授業改善という側面よりは教員評価という点を前面に出す結果となっていないだろうか。数値による評価よりも言葉によるコメントのほうが、より具体的な授業改善につながることはいうまでもない。「②改善して欲しい点」の記述の少なさは誠に残念であるといえる。

このような問題を解決するためには、授業評価アンケートの改善が必要であろう。現在、授業評価アンケートの改善作業が学部内で進行している。しっかりと記述できる時間の確保など、授業評価アンケートが授業改善を第一義的なものにしなくてはならないという合意が形成されつつある。そう考えれば、いくつかの改善案が考えられる。例えば、授業評価アンケートの実施時間を授業終了前の10分とするのではなく、授業開始直後の10分とし、学生の学びの振り返りとして、しっかり記述してもらうだけで、充実したコメントが期待できるであろう。現在、授業評価アンケート期間中は10分短い授業を行い、10分間でアンケートを記述しているが、アンケートを早めにかたづけ長めの休み時間を楽しんでいる学生が多く見受けられる。授業評価の実施時間帯に関して検討すべきであろう。また、自由記述欄のマス数の少なさも問題である。63文字分のマス目が用意されているが、もっと広いスペースを提供すべきであろう。さらに、授業評価アンケートの結果を積極的に学生に開示し、学生たちの授業改善への取り組みへのより主体的な参加を促す必要があるであろう。学部やFD委員会での創造的な議論を期待したい。

おわりに

2013年度後期における本学の授業は、全体として、良好な数値が得られると同時に、本学の課題が浮き彫りとなった。

まず、Q15「この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。」以外の調査項目において、前回調査と比べて、数値が改善していることが指摘できる。教員に対する評価も向上しているだけでなく、学生自身への自己評価も改善している。大学の教育力の向上、学生の満足度の向上ともいえ、喜ばしいことである。今後とも、教員の授業改善努力が求められる。

しかし、その数値の改善の中で、学生の授業への予習・宿題への週当たりの費やす時間の低下は、教員たちに大きな課題を突き付けるものである。学生たちの教員評価、満足度、授業内容の理解は、一授業あたり週に30分ほど、あるいはそれ以下の自学時間

を前提とするものであり、そのような前提のもとでの高評価にすぎないものである。自立した学習者の育成が求められているなか、学生たちは講義さえ受ければ単位取得ができ、それで満足している傾向がないであろうか。ひとつひとつの授業が、講演会のように、予習を前提としないような学びとなってしまっていないだろうか、教員は深く再考しなくてはならない。

学生による授業評価について

調査期間： 前期 7月
後期 1月
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。

率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問1～17について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5 非常にそう思う 4 そう思う 3 どちらとも言えない 2 そう思わない 1 全くそう思わない

	評 価 欄
1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5 4 3 2 1
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5 4 3 2 1
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5 4 3 2 1
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5 4 3 2 1
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5 4 3 2 1
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5 4 3 2 1
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。	5 4 3 2 1
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5 4 3 2 1
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5 4 3 2 1
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5 4 3 2 1
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5 4 3 2 1
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5 4 3 2 1
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5 4 3 2 1
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5 4 3 2 1
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。	5 4 3 2 1
5 (3時間以上) 4 (2時間ぐらい) 3 (1時間ぐらい) 2 (30分ぐらい) 1 (ほとんどしなかった)	
16. この授業を全体的に評価してください。 ※当てはまる数字に○をつける。 5 秀 4 優 3 良 2 可 1 不可 0 わからない	
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5 4 3 2 1

科 目 名	ク ラ ス 名 ()			
学 籍 番 号 *				男
学 年	1	2	3	4
所 属 学 科	1 英語科		2 保育科	
	3 英語コミュニケーション学科			
	4 科目等履修生			
入 試 区 分	1 一般入試	2 推薦入試	3 A0入試	

* (学籍番号) できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

(裏面に記入)

1. この授業のよい点
2. この授業に改善してほしい点
3. この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
4. 学長へ（聞いてほしいこと）

(裏のページへ進んでください⇒)

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答用紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点													
2. この授業に改善してほしい点													
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。													
4. 学長へ（聞いてほしいこと）													